

## 学びのステップ

### 1年次

#### 専門知識を体系的に学ぶ

1年次では、数学、物理学、化学など、バイオサイエンスの基礎となる学問を学ぶとともに、専門の教授陣による専門科目もカリキュラムに取り入れています。

### 2年次

#### 演習、実験で応用力を磨く

生物科学のコアとなる科目、さらに生物機能を巧みに利用・改変して有用物質の生産や医療、地球環境の保全に役立てるバイオテクノロジー関連の講義、演習、実験が行われます。

### 3年次

#### 多様な専門領域を選択する

3年次には、学生の学問に対する意欲と自主性を尊重し、教員構成に応じた多様な選択に応えられるよう、幅広い専門選択科目や特別講義が用意されています。

### 4年次

#### 研究を通して学ぶ卒業研究

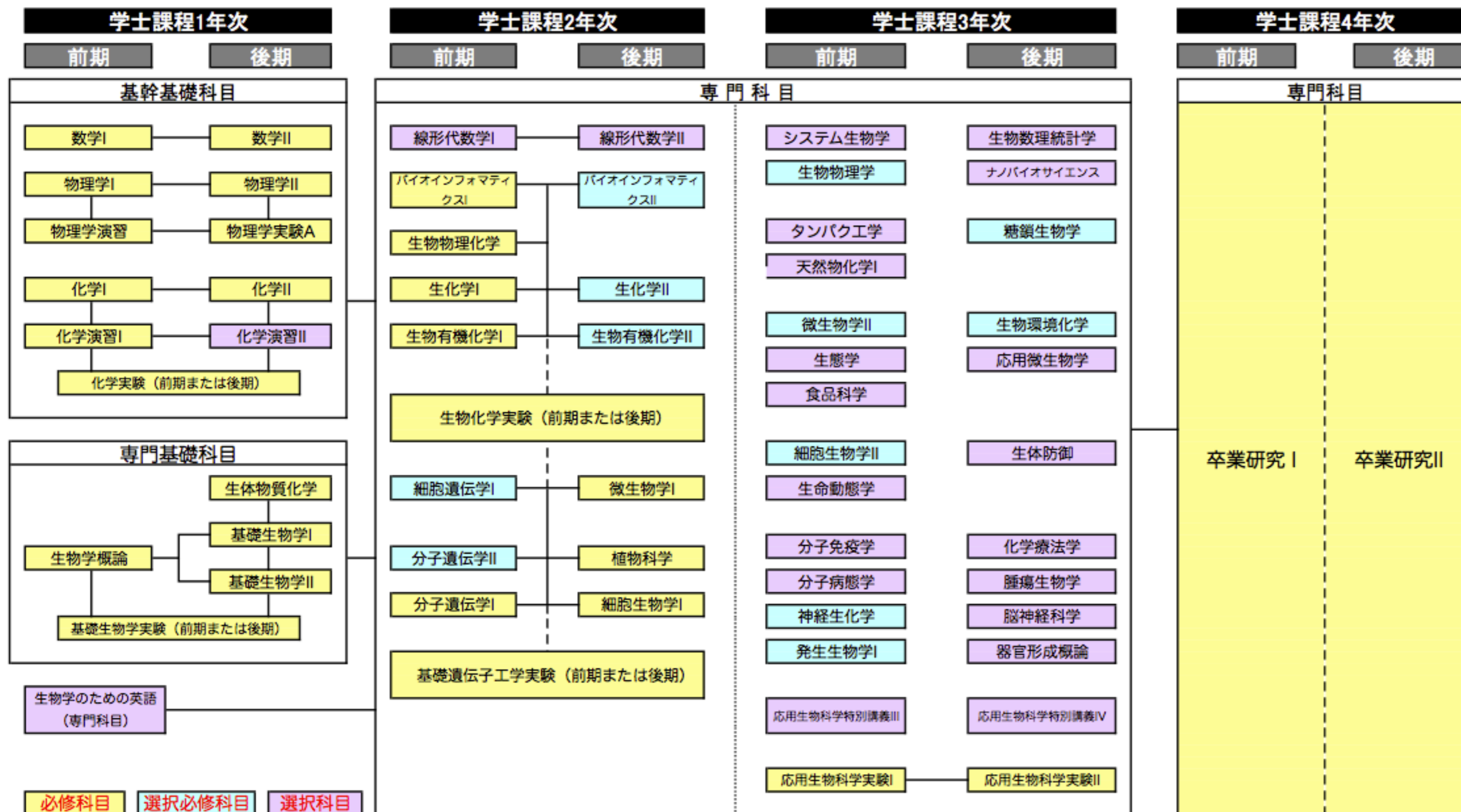
少人数に分かれて研究室に所属し、教員の直接の指導のもとに専門テーマを追求する卒業研究を行います。原著論文を読み、活発なディスカッションを行いながら、研究が進められます。

### 大学院

#### (修士・博士課程)

微生物からヒトにいたる生命科学の基本法則を探求するとともに、科学上の問題を解決するための周到な実験戦略を立案・遂行する能力を有する人材を育成します。

## カリキュラム構成



## カリキュラムポリシー

「実力主義」に則り、生物科学の基礎知識と応用技術とを同時に身に付けた学生のみを卒業させる方針に基づいて、教育課程を実践する。「細胞生物学」「分子生物学」「生化学」「生物有機化学」「生物物理学」「環境生物科学」の6つの領域の生命科学を有機的に学べるように科目を配置する。初年次教育を重視し、一般教育科目、基幹基礎科目、専門基礎科目それぞれの目標が確実に達成されるように、基礎科目を体系的に編成する。専門基礎科目は、演習とカップルさせることにより知識と応用とが確実に身につくように、編成する。知識を得る課程を実験によって明確に理解させ、その探求方法が身につくように科目を配置する。最終年次では、社会に出て通用するコミュニケーション能力と発表能力を陶冶し、研究結果をポスター、口頭で発表、議論できるよう育成する。

## 人材育成等に関する目的

微生物から高等生物にいたる生命現象を様々なレベルで解明する生物科学と、それを基盤とする応用技術を身につけた人材を育成する。